

①畜舎

人がおらず外からみるだけだったが、牛が10〜20頭ほど飼育されており、警戒心が強い牛が多かった。都農は都農ワイン牛（黒毛和牛）を特産物としている。建物の奥には、牛の餌を貯蔵する倉庫のようなものがあり、畜舎の手前には小さな畑のようなものもあり、野菜を育てているような感じであった。



②地域コミュニティバス

水・金の週二日で平日のみ運行しているバス。1人1回あたり、200円で利用可能のようだった。バス停は標識が傾いており、周りは草が生い茂っていた。非常にわかりにくく、もはや今も実際に運行しているか怪しいのではないかと感じた。以上のことから、バス停を使用している人は少ないのではないかと推測した。また、バス停の近くには民家があり、バナナを栽培していた。



③危険な場所！

この道は緩やかな傾斜かつカーブであったが、街灯とカーブミラーがなく、昼でも危険な道となっており、夜になるとさらに危険性が増して、いつ事故が起きてもおかしくない場所であると感じた。街灯がないカーブは夜になると視認性が低下し、適切なスピードでカーブを曲がるのが難しくなり、カーブミラーがないカーブは、カーブを曲った先の道路の幅や対向車の把握が難しくなる。車通りが多いわけではなかったが、車線が区切られているわけでもないで危険性は否めない。



④ふじみ市

5月18〜19日に藤見公園の広場にふじみ市というマルシェが開催されていた。地域の特産品や自家製の料理などを販売しており、多くの親子連れで賑わいを見せていた。参加しているお店同士やお客さんとの交流も見られ、地域のつながりを感じられる空間となっていた。つる未来財団の方が取材に来ており、SNSでも紹介しているようだ。今後のふじみ市の盛り上がりにも期待できるだろう。



⑤記念碑

昭和54年に圃場整備工事が完成した記念に建てられた記念碑。記念碑を建てることはとても重要で、歴史の保存と伝承や敬意と感謝の表現だけでなく、コミュニティのアイデンティティとして記念碑はコミュニティの歴史や価値観を象徴するものであり、地域のアイデンティティを強化する役割を果たす。これにより、地域住民は自分たちの歴史や文化に対する誇りを持つことができる。また、記念碑は人々が特定の出来事や人物について思いを共有し、団結や連帯感を強める象徴となることがある。これにより、コミュニティ全体の一体感が高まる。



⑥都農川

川の縁は、整備はされていなかったが、石が階段のようになっているため、上から降りて、近くで見ることができた。川の上流側は岩が多く流れが急で、下流側は岩が少なく流れが穏やかであった。川の水深は浅く、小さな魚や虫が生息していた。水質は良く、水の透明度が高く、ごみも少なかった。フィールドワーク時は、真夏のような暑さであったが、川の近くに行くだけで気温がぐっと下がり、涼しむことができ、フィールドワークで疲れた体を癒してくれた。



⑦ミニトマトのビニールハウス

探索した地域にあったビニールハウスはどれもミニトマトを栽培するためのものであった。収穫されたトマトが置いてある所や外から覗いてみて、育てているとわかるものがあったが、ビニールハウス内が雑草だらけになってしまっている所やビニールがもう掛けられないまま放置されてしまっている農業放棄地もちらほら見られた。



⑧田んぼ

田んぼは、既に田植えが完了しているところがほとんどであり、一本一本丁寧に植えられていた。田んぼごとで稲の成長度合いが違っており、田んぼの淵には、農業用の用水路があった。加えて、田んぼには、鳥が何羽も生息していて、生態系を保つ場所になっていた。田んぼの近くには、トラクターやトラックなどが止めてある小屋があり、自分たちがちょうどトラクターを見つけたときに帰っていった。おそらく一仕事を終えた後だと考えられる。



～感想～

奥雪乃

正直、本講義を受けるまで「都農町」という存在すらも認識していなかったが、下調べと今回のフィールドワークを通して、自然を非常に身近に感じることのできる環境であり、つながりを大切にしている地域であることが分かった。しかし、課題として地区によってはお店があるところまで行くには車が必須であったり、坂が多いことで徒歩での移動は体力的に大変であったり、どうしても生活しにくい面もありそうだと感じた。探索の最後にふじみ市に立ち寄ったのだが、お店の人に参加している人が気軽に話していたり、使っている食材が地域のもののみであったり、と地域のつながりを強く感じることのできる空間だった。地域の人のとどかな時間と共有することができるイベントがあり、長く続いていることは、都農町の魅力の一つであると思った。フィールドワークは地域を理解する上で必要不可欠なものであると強く感じたのと共に、今回都農町へ行ったことは、非常に貴重な経験になったと感じている。

黒田 依吹

私は、今回の都農のフィールドワークを通して、都農の魅力を知ることができた。都農の魅力は、気候が暖かく、暮らしやすい風土をしていることである。加えて、人も温かいので、地域の方々のつながりが強いということでもある。私は、その都農の魅力と、今回のフィールドワークで肌を感じることで、とても良い経験になった。都農は、特産物が多く存在しているため、その特産物を使ったワインなどを全国にPRしていくべきだと感じた。また、実際に現地に行き、研究や調査を行うことで、書籍やインターネットでは得られない貴重な情報を得ることができた。現地の環境や文化に触れることで、仮説が実際の現象とどのように関連しているかを理解することができた。全体として、フィールドワークは学びと成長の機会であり、自分の将来に活かせる貴重な経験となった。

日高 由結

フィールドワークで実際に都農に行ってみて、暖かい気候であったり、一切濁りがなくきれいな川や草木が茂っているなど、自然の豊かさを実感できた。インタビューした、つる未来財団の方もまだ2年ほどしか住んでいないが、地域の人が温かく施設などもコンパクトに固まっておりで住みやすいまちと仰っていた。私も地域の方の温かさをを感じる事ができたが、探索した地域が駅から30〜40分ほど歩かないと着かない場所であったことや都農自体がとても広いこともあり、車を所持していなければかなり不便だろうと感じた。田んぼやビニールハウスが探索地域には多くあり朝から農作業をされている方も何人かいらっしゃった。しかし、もう整備されなくなり雑草が生い茂ってしまった田んぼや使われなくなり放置されたビニールハウスも少なくなく、農業放棄地の存在が目立っていた。農業放棄地を有効に使う方法などがあればよりよくなるのではないだろうか。

丸花 奏登

今回のフィールドワークを通して自然がもたらす素晴らしい空間を体験できた。都農町は自分が想像していた田舎のイメージに近く、自然に囲まれた土地であった。基本的にどこを見ても緑が多く、ゆっくりと時間が流れているようだった。川は水がとてもきれいでゴミがほとんど落ちていなかった。ふじみ市に訪れたが、地元住民の方々とても賑わっており、どこを見ても笑顔と会話が絶えることのないイベントだった。その中で、ベンチを拭いたり、ゴミを拾って集めたりしている方がいた。その方は自主的にその様な活動を行なっておられ、自分もその方のように誰かからお願ひされなくても人のために動ける人になりたいと思った。暖かい人と豊かな自然が存在する都農町はもっと多くのの人に知られ、訪れられるべき場所だ。フィールドワークを都農町で行うことができとてもよかった。